



1950年創業 ビーフンのオンリーワン・No.1企業

ケンミン食品株式会社

2026.2.17

News Release

ビーフン・フォーの輸入量※1が2年連続で過去最高※2を更新！ 大台の10,000トンを超え ～シェアNO.1 ※3のケンミン食品も過去最高の輸入量に～

通関統計によると、2025年1月～12月のビーフンに代表されるコメを主原料にしためん類の輸入量は11,811tで、2024年の11,251tと比較して105%となり、2年連続で過去最高を更新しました。内訳をみると、1位のタイが6,297t（前年6,312t/対前年比99.8%）、2位のベトナムが4,929t（同4,464t/同110%）となりました。業界シェア1位※3のケンミン食品（兵庫県神戸市・代表取締役社長：高村祐輝）の輸入量は、5,155t（同5,120t/同101%）となり、2年連続で過去最高※2の輸入量となりました。

※1「ビーフン・フォーの輸入」は、以下の統計品目番号をとりまとめたもの【1902.19-010 ビーフン（加熱による調理をし、詰め物をし又はその他の調製をしたものを除く）】

※2「過去最高」とは、比較可能な1988年以降のデータを基礎として比較したもの。

※3 通関統計ビーフン類2025年1～12月シェア43.6%

1 ビーフン・フォー市場（輸入量）伸長の背景

○2年連続で輸入量が増えた要因は、健康志向・簡便志向の浸透により、野菜とともに食べることが多く、簡単に調理できる「ケンミン焼ビーフン」に代表されるビーフン料理が多くの方の食卓に普及できたことが挙げられます。また、昨今の食品値上げにより節約志向が高まる中、比較的購入しやすい価格のビーフン類への関心がさらに高まったと考えられます。

○また、ベトナムからの輸入が増加している要因としては、日本国内の在留外国人数としてベトナムが中国に次ぐ第2位であり、2024年6月末時点で66万人と年々その人数が増加※4しており、10年前と比べて6倍程度に増えています。ベトナム人が増えることでフォーの輸入がさらに増えていると考えられます。

※4出典：出入国在留管理庁 令和7年6月末現在における在留外国人数について

ビーフン・フォー輸入通関統計						単位:トン
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
合計	8,464	8,418	10,160	9,725	11,251	11,811
タイ	5,117	4,891	5,907	5,598	6,312	6,297
ベトナム	3,028	3,157	3,837	3,626	4,464	4,929
その他	319	370	416	501	475	585



当社が販売するグルテンフリー商品（一部）

2 ケンミン食品の状況

当社グルテンフリー商品（14SKU）の2025年1月～12月の販売実績は約2.3億円で、昨年同期間と比較して107%と伸長しました。特に主力商品の「ライスパスタ」は129%、「グルテンフリーラーメン」群は161%と大きく販売を伸ばすことができました。要因としては、健康志向や家庭内調理といったトレンドにより、お米のめんの認知・購入経験が増えたこと、また2025年大阪・関西万博を通じ、当社のグルテンフリーラーメンが多くの方に関心を持ってもらえたことが考えられます。

ケンミン食品とは

1950年神戸創業のビーフン専門メーカー。国内ビーフン市場の43.6%のシェアで日本一。創業者高村健民に因み、健康（健）を皆さま（民）に提供するという理念を持つ。看板商品「ケンミン焼ビーフン」は世界初の即席ビーフンとして1960年誕生。“最も長く販売されている即席焼ビーフンブランド”としてギネス世界記録™ に認定。ビーフンの他にも、フォー、ライスパスタ、ライスペーパーなど米を原料とした加工食品を製造する専門企業である。2020年に「すべての人にラーメンを！」本格的な米粉中華麺を開発し、『GF RAMEN LAB』を立ち上げ、2025年大阪・関西万博に常設のグルテンフリーラーメン専門店を出店し、9万人以上の来店者を達成した。2018年地域未来牽引企業、2020年ひょうごオンリーワン企業に認定。2019年より明治安田J1リーグヴィッセル神戸のオフィシャルパートナー。

■ 本件に関するお問合せ窓口 ■

ケンミン食品株式会社 広報室 電話：078-366-2054 担当：田中・本吉

e-mail：kenminpr@kenmin.co.jp 〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通5丁目1番1号

